

6. きょう土を開く

1 南湖を開く



開さく……土地をきり開き、運河・トンネルなどをつくること。
碑文……石碑にほりつける文章



南湖開さく碑文の意味

南湖は長い間、手入れをしなかった
ので、いろいろなざっ草がたくさん生いしげっており、あれており、
山水の好きな人でもみんな、だれも
この南湖を気にかけないので、つつ
みはやぶれ、水はもっている。

松平定信公が言われるには……。
「これは、水中にあるどろをとって
深くし、つつみのくずれているところ
を直し、これを強くしてもどのよ
うな湖にすれば、湖は前よりずっと
よくなり、水もいっぱいだろう。こ
の水を田に入れて人民の生活を豊か
にし、また、多くの人たちと舟をう
かべて、これで多くの人の平和と無
事を楽しむことができる。」と。木
を植え、魚をあつめ、工事が終わっ
たのは数十日後であった。

この工事で、水辺にはえてたくさ
んあった葭はくさり、水辺にあった
蒲はくさりやぶけ、そのようなざっ
草の生いしげっていた土地は湖の中
にしずみ、いろいろなよごれはすっ
かり流れてしまい深いところは水が
よどんでうかびあがることのできな
い深みとなり、浅いところは波うち
ぎわとなる。曲がっているところは
わたしばとなり、出ているところは
島となり、土や砂がもり上がってい
るところは州として、公園の美しさを
ととのえた。 (一部)